



神奈川の風



平成28年5月16日号

校長 吉江 明洋

< 二十四節気とは >

前号で紹介した二十四節気の「小満」。みなさんには馴染みがないかもしれませんが、二十四節気とは、古代中国で四季の変化を知り、農耕の目安とするため、太陽の運行に基づいて作られた暦上の二十四の節目のことで、日本でも古くからこの考え方が根付いています。

一月（小寒・大寒）二月（立春・雨水）三月（啓蟄・春分）四月（清明・穀雨）五月（立夏・小満）六月（芒種・夏至）七月（小暑・大暑）八月（立秋・処暑）九月（白露・秋分）十月（寒露・霜降）十一月（立冬・小雪）十二月（大雪・冬至）の二十四となっています。



春分や秋分などは祝日にもなっているので知っていると思いますが、これらも二十四節気のひとつです。他にも昼間が最も長い日となる夏至。夜が最も長い日となる冬至など、日本の生活に切り離せない節目となっており、それにまつわる行事や言い伝えも多くあります。日本の忘れてはいけない文化をこれからも紹介し、伝えていきたいと思っています。

< コミュニケーションの原点 >



ある朝のこと、校門をくぐると朝練の運動部員が私を見つけて「おはようございます」と、しっかりと爽やかに声を掛けてくれたので「おはよう」と返しましたが、お互いに仲間と認め合っている気がして、嬉しく気分良く一日をスタートすることができました。

学校でも家庭でも会社でも近所付き合いでも、社会生活での互いのコミュニケーションの第一歩が、「あいさつ」です。人に会ったらあいさつをする。「おはようございます」「こんにちは」。これは相手と自分の存在を互いに確認する言葉です。朝起きたら家族同士であいさつしていますか。近所の人に道で会ったらあいさつしていますか。恥ずかしながら思い切って、明るく元気にまずはあいさつです。

また、あいさつだけでなく「ありがとう」の言葉も相手に対する感謝の気持ちの重要な表現です。「あなたのしてくれたことを十分に理解しています」「あなたに感謝しています」など、相手のしてくれたことに対する素直な気持ちを伝える言葉です。同じく「ごめんなさい」も、今の自分の気持ちを伝えるとても大切な言葉です。

「ありがとう」も「ごめんなさい」も、心で思っているだけでなく、言葉にして初めて相手にも自分の気持ちが伝わって、互いに認め合うことができるのです。

本校の生徒は廊下ですれ違っても、あいさつできる生徒が多いと感じますが、ぜひこれからも、生徒・先生・来校者が相互に、元気で明るいあいさつが交わせる学校となるよう、全員が意識してみんなで声を掛け合いましょう。